平成３１年度（令和元年）

佐那河内中学校
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

小中学校9年間を見通した，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
大島　浩代 （研修主任・2学年主任）	校長：後藤田　育秀　　教頭：倉橋　誠一 教務主任・3年学年主任：岡島　三千代　　国語主任：久米　智宏 1学年主任・数学主任：篠原　貴道

校長

後藤田　育秀　　印

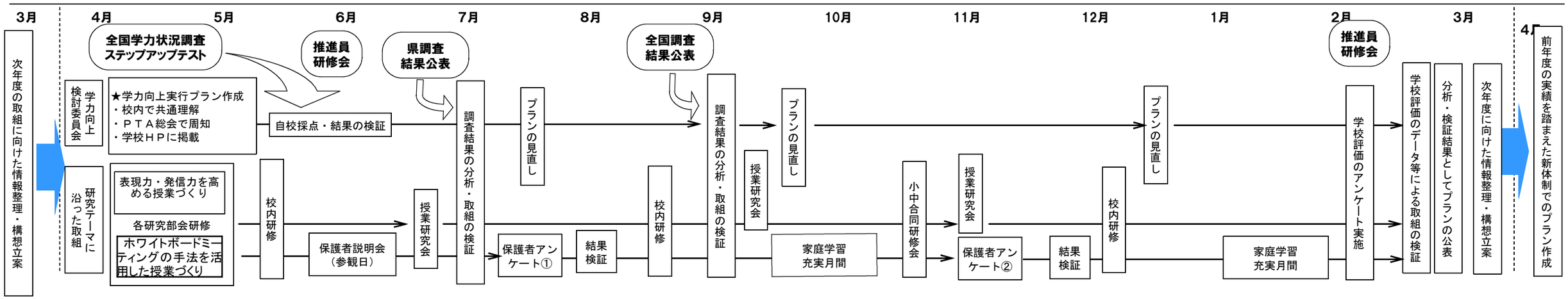
（１）基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況		具体的目標（目指す子供の姿）	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	ステップアップテストの結果から，国語科の「言語事項」，「読むこと」は，知識の定着が見られる。数学科の「数と式」「活用」「図形」の領域について成果が見られる。	・自主学習ノート等を活用して，予習・復習をし，基礎・基本的な学習をくり返し行う。 ・読書を通して，言語活動の基礎となる語彙や文章表現を学ぶ。	・全国学習調査，ステップアップテスト，基礎学力テストなどの平均正答率を県平均以上にする。 ・月に5冊以上の本を読ませる。 ・課題の提出率を90％以上にする。			
課題	学力の個人差が大きい。 受け身的な学習が定着しており，自主的に興味・関心をもって学習を進める姿勢を持たせる必要がある。また，課題に対して粘り強く取り組む姿勢が不足している。	**具体的方策（教員の取組）** ・漢字の読み書きや語句の定着にむけた問題や，基本的な問題にくり返し取り組ませる。また，朝の読書活動をより活性化する。 ・読書記録をつけさせるとともに，機会をとらえて本の紹介をする。 ・発表方法等の指針や授業の約束を明示し，言語環境を整える。 ・「めあて」「振り返り」を位置づける授業を行い，わかりやすい授業を行う。	**取組指標** ・単元ごとの小テストを実施し，つまずいている生徒に対して，放課後や昼休みに補充学習を行う。 ・長期休み中に補充学習を行う。 ・読書カードを充実させ，月の目標読書冊数を決めさせる。		**評価** **次年度における改善事項**	

（２）知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況		具体的目標（目指す子供の姿）	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	素直に自分の考えを発表したり，与えられた課題に意欲的に取り組み，順序立てて課題を解決することができる。	・根拠や理由を明らかにしながら，自分の意見や思いをわかりやすく伝えることができる。 ・課題の解決に向けて，情報収集・整理・分析をし，自分の考えや思いを発表する力が身についている。 ・「英語話し隊」の腕章をつけた先生や生徒に，気軽に話しかけることで，児童生徒が英語に慣れ親しみ，自然に表現できる。	・定期テストにおける記述式の問題の割合を増やしたり，字数を決め，自分の考えをまとめる問題の正答率60％以上をめざす。 ・字数を決めて，自分の考えをまとめる問題や国語の作文試験で60％以上の得点をとる生徒の割合が80％をめざす。			
課題	各課題に対して粘り強く取り組むことが苦手な生徒がいる。文章を読み取る力，記述式の問題に対して，自分の考えを文章で表現する力や資料を活用する力をつけることが課題である。	**具体的方策（教員の取組）** ・スピーチや役割演技，討論など，ペアや小グループなど様々な形式で発表させる。 ・記述式の問題を説くポイントを指導し，書くことに慣れさせるとともに，改善ポイントを個別にアドバイスする。 ・中学生による小学生への絵本の読み聞かせを定期的に行う。 ・外国の子どもたちとスカイプやビデオレター，手紙で交流することにより英語の4技能5領域の力をつけさせる。	**取組指標** ・学校行事におけるお礼状など，体験したことを文章にし丁寧な文字で書く課題を課す。 ・ホワイトボードミーティングの手法を取り入れ，表現力の育成を図る。 ・月1回以上は，スカイプまたはビデオレター，手紙で交流する。		**評価** **次年度における改善事項**	

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況		具体的目標（目指す子供の姿）	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	落ち着いた学習態度で，ノーチャイム，2分前着席もできている。また，自主学習ノートや宿題プリントなどの課題にもまじめに取り組むことができ，提出率もよい。	・学習に主体的に取り組み，自らの疑問点を積極的に解決していこうとする意欲を持つことができる。 ・学校や家庭における学習習慣を身につけている。	・家庭学習が　1年生は2時間，2年生は3時間，3年生は4時間確保し，生活習慣アンケートでチェックする。			
課題	わからない問題や難しい課題において，すぐにあきらめてしまうところがあり，白紙回答にしてしまう生徒もみられる。 また，家庭学習の定着が不十分である。	**具体的方策（教員の取組）** ・ICTやデジタル教科書などを利用し，生徒のレベルに応じて「わかる」喜びを感じさせる。 ・「授業の約束」を明示して授業に集中させ，家庭学習の手引きを活用し自主的に学習できる環境をつくり，根気よく指導する。 ・英検や漢検などの各種検定に積極的にチャレンジさせる。	**取組指標** ・2週間に1回，教師による質問教室を開き生徒の疑問を解消させる。 ・よく学習している生徒の取り組みを学年だよりなどで紹介し努力を賞賛する。 ・英検，漢検の受検率80％をめざす。		**評価** **次年度における改善事項**	

平成３１年度　学力向上ロードマップ